

報 告 書



平成21年6月19日（金）

記録者 高橋 金治

3党（民主党、自民党、公明党）合同議員懇談会

場所：名古屋市議事堂4F第4委員会室

日時：平成21年6月19日（金）

午後12時30分～12時55分

会った人：座長：久野 浩平議員

民社党団長 吉田 伸吾議員

自民党団長 桜井 治幸議員

公明党団長 加藤 武夫議員（当日は所用のため欠席）

以下民主党議員：上園 ふさえ、斎藤 まこと、服部 将也 計3名

自民党議員：渡辺 義郎、斎藤 実、岡本 善博、中田 ちづ子、前田 有一、工藤 彰三、東郷 哲也、小出 昭司、中里 高之、岩本 たかひろ、成田 たかゆき、水平 かずえ 計12名

公明党議員：馬場 のり子、福田 誠治、木下 優、中村 満 計4名

以上22名

市腎友会側：加藤顧問、奥村会長代行、山本副会長、森副会長、小栗副会長、高橋（元）事務局局長、水上女性部長、河村女性部次長、高橋（金）編集部長、安井 仁尾張第4支部長、石川（名古屋北クリニック）

以上11名

目的：市議会議員超党派（民主、自民、公明）に透析医療の現状と特に通院の状況を訴え、タクシーチケットの増発について要望するため。

内容：「透析患者のタクシーチケットの増発について」要望
現在120枚支給を36枚増発して156枚にして欲しい。

要望理由：透析の患者の高齢化に伴う通院事情を説明。現在、送迎バス、タクシー、公共交通機関及び自家用車等で通院しており、今は何も問題ないが、将来は不安である。
送迎バスは、1台年間1,000万円近くかかっており、これ以上患者が増えた場合困難であり、送迎バスを止めてしまう病院もある。年金生活では、現状のタクシーチケットでは、生活に困窮する。透析難民を出さないようお願いしたい。

議員側の質問：1. タクシーチケットの利用者数は？
2. タクシーチケット36枚増加に伴う予算はいくらぐらいかかるのか
3. リフトタクシーについての利用度は？

回答：1, 2については、名古屋市の透析患者数5,600人ぐらいだが、全部か使うわけではない。タクシーチケットを使った分だけタクシー会社から市へ申請される。詳しくは、座長の久野浩平議員がシステムを説明。
3については、タクシー会社の運営が厳しいので、リフトタクシーは増えていないし、リフトタクシーを利用するための介護認定がむずかしい。タクシーか送迎バスを使っているのが現状である。